14 LIFE BELOW WATER

〈目標14〉海の豊かさを守ろう

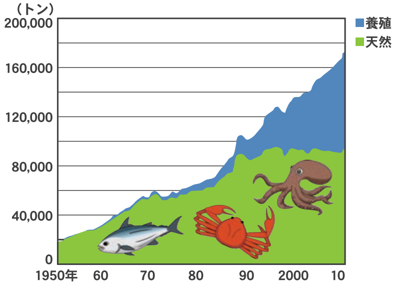
海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する

環境配慮型のカキ養殖～国際認証取得への合意形成～

きっかけは、東日本大震災。「船も家屋も流され、もう養殖業は無理かと思った」と諦めかけた時、宮城県漁業組合南三陸町戸倉カキ部会では、復興と同時に従来の大量生産型のカキ養殖を見直す動きが始まった。従来の養殖いかだを密に設置した大量生産の方法を数年かけて戻せたとしても、津波がくる度に復興には時間と費用がかかる。そこで、戸倉カキ部会の後藤清広会長は、元に戻すだけではなく持続可能な養殖漁業を実現するため、新しい生産方法への転換を提案した。

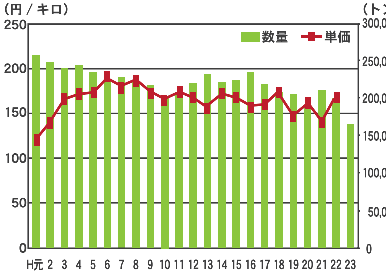
新しい生産方法は、養殖いかだの設置数を減らすことでカキの栄養状態を高め収穫サイクルを短縮。海洋環境への負荷も軽減されることから設備も簡素化され、環境配慮型でありながら災害から復興しやすいメリットもある。しかし、方法が未だ確立されていないことや、収穫量減少の懸念から収入への不安を持つ養殖業者も多く、役員以外の全会員が反対した。カキ部会では話し合いが繰り返され、徐々に「20年後の生活を見据え、漁業を考えていくべきではないか」「挑戦してダメなら、また元に戻せばいいじゃないか」いう声が上がり始めた。年100回もの議論を重ね、最終的に全

世界の水産物生産量（養殖/天然）



出典：WWF 活動トピック ASCについて

カキ生産量・単価推移（殻付き換算）



出典：水産庁 第一回養殖業のあり方検討会（平成25年2月）
【資料2】養殖業の現状と課題について

ASC国際認証

ASC認証は、国際機関であるASC（Aquaculture Stewardship Council：水産養殖管理協議会）により、自然や資源保護に配慮しつつ、安全で持続可能な養殖事業を営んでいることを認める国際認証制度。

世界人口が増大する現代に、養殖は安定食料供給のために重要な役割を担うが、同時に自然環境の破壊、生態系のかく乱などの問題も浮かび上がってきている。そういった課題を人々の意識に留め、解決していくための一つの手段として、ASC認証は徐々に世界で広がりつつある。

会員が賛同した。

2011年から2013年まで農林水産省「がんばる養殖復興事業」の支援を受けて環境配慮型の生産方法を確立。栄養たっぷりの海で養殖されたカキは、従来の方法で2年かかった20gにまで約4ヶ月で生育し、出荷までの期間も２年から１年へ短縮された。生産コストは下がり、味の質が上がったことにより単価は上昇した。自然との戦いから、持続可能な漁業を目指した自然との共生にシフトさせたことによる成果は、稼業である水産業を継ぐ若者が増えたことにもつながった。

そして2016年、カキ部会に参加する37の養殖業者、WWF、研究者、南三陸町等の協力を経て、環境に配慮した養殖場としてASC国際認証を日本で初めて取得。大災害を経て、自然環境と人との関係を問い直し、困難に立ち向かった南三陸沿岸だからこそ発信できる「持続可能な社会づくり」があるのかもしれない。

戸倉かき部会

ASC認証の取得伝達式

Point

- 復興に強く環境配慮型の養殖方法への転換による持続可能な地域づくり
- 20年後の生活を見据え自然との戦いから共生へ視点をシフト
- マルチステークホルダーによる合意形成

宮城県南三陸町

宮城県の北東部、本吉郡の南部に位置し、志津川湾に面する町。沿岸部一帯は三陸復興国立公園の指定を受けている。リアス式海岸の三陸は、森が海に迫る地形と、入り組んだ海岸がつくる複雑な海流が特徴的。海に突き出た森「魚付保安林」の下には、多様な魚が宿る。気仙沼には大きな河が流れ、「海の恋人」と守られている森の栄養が湾に注ぐ。逆に、南三陸町は閉鎖的水系にあり、土地に降った雨が、他の街の生活廃水などで汚れることなく海に流れ込んでいる。

Data

- 地理：宮城県の北東部に位置
- 人口：13,554人(2015年11月末現在)
- 誕生：2005年10月1日に旧志津川町と旧歌津町が合併し南三陸町が誕生